

C-14 伊達藩の服飾(第6報)

—伊達家服飾遺品について(5)—

聖和学園短大 中村 恭子

1. 第5報まで、伊達家服飾遺品について、仙台市博物館所蔵の孔雀毛織陣羽織および伝伊達政宗所用陣羽織、三代藩主伊達綱宗側室(四代藩主生母)浄眼院三沢氏初子所用帯12条の概要について報告をおこなった。今回はひきつづき伝三沢初子服飾遺品(朱綸子縵かのこきれ、袷紗、草色紗綾地唐草に九曜文袴)について紹介、報告をし、ついで三沢氏初子服飾生活をとおして近世前期の染織について考察をおこないたい。

2. 実物精査、文献資料および絵画資料による考察とくに浄眼院三沢氏初子関係資料による考察、同時代伝承の確実度の高いものと思われる染織資料との比較検討によって追究をこころみた。

3. 正徳2年の入日記に記されている朱綸子縵かのこきれをはじめ袷紗・草色紗綾地唐草に九曜文袴ともに調査の結果によれば、はじめの状態のうぶなものと思われる。そしてこれを含む16点の伝浄眼院三沢氏初子服飾遺品より三沢氏初子の服飾、またそれより江戸前期の染織・服飾の実状を把握し得たように思われる。